



# 「木の抱き人形」に 会いに行こう！

ふらむ探検隊の秋の旅は、  
和歌山県を飛び出して県外へ進出〜っ！



人形づくりをはじめから、最初に形となったのがこの男の子。一体つくり上げることに多くの事を学んでいるといいます。

今回は、人形作家『三浦孝裕』さんに会いに大阪府堺市へ行ってまいりました！  
旅の途中の会話は、もっぱらふらむ一号の妖怪話して盛り上がり、高速のインターを降りたあとは肝心なナビが黙ってしまい…慣れない道中、勘を頼りにぐるぐると車を走らせ、やっとのことで到着しましたあ〜三浦さんの自宅兼工房！

大学卒業後、サラリーマンになった三浦さんは4年目に科  
学物質過敏症を発症し、会社を  
退職せざるを得ない程の重症  
状に苦しまれることに…。

そして今から約5年前、自宅  
で療養を続けていた三浦さん  
が、ある材木屋さんと知り合い、  
木の持つ生命感に強く惹かれる  
とともに「材木なら自分の身体  
でも何か作ることができるので  
はないか」と思ったのが、きつ  
かけとなった出来事だと話して  
くれました。



衣装には主に木綿や麻の古布を使用。日本の古き良き時代をよりイメージしやすくするため、人形には手縫いの着物が着せられています。





三浦さんの作品のテーマは「古き良き日本の風景」。ポストカードには、ひたむきで無垢な子供たちの楽しい話し声がきこえてきそうな、ほほえましい姿が再現されています。何となくイメージできる雰囲気作りを大切に、その先は見る人それぞれがもつ懐かしい風景をイメージしてもらいたい…。そう話す三浦さんの言葉から「見る側が楽しみ癒される世界を大切にしているのだ」と感じたがらむ隊でした。



# 人形作家

takahiro mura  
三浦孝裕さん



長い闘病生活という自らの経験から材木は国産の無垢材を使用。中でも、素地が日本人の肌に近いことや手にしたときの重量が適当であることからシナ材を選ばれたそうです。その他、頭髪や衣装にもこだわり仕上げられた人形たちは、見ているだけでほっこり癒されてしまいます。より人に近づけるために人の関節の可動範囲通りに再現した球体関節人形。一体一体、それぞれの個性や性格、心境が現れているかのようには表情もさまざま。その表情を見ていると今にも話しかけてきそうな完成度です。聞けば、形になり始めた人形が三浦さんに話しかけてく

るといいます。人形との会話の中で、ストーリーをイメージし、着せる衣装や撮る写真が決まるそう。「その時の自分の心境が人形の表情に表れてくるようです。だから人形と話しができるとかと思えます。心が反映すればするほど愛おしくなり、一彫りひとほりに魂を込めていきます。」(三浦さん)「ほあ。ものすごく奥深くて素晴らしい！見る側にも想いがちゃーんと伝わってくるもんだね。」(がらむ隊)

ものすごくに対する強い情熱を感じる事ができた今回の旅は、芸術の秋にふさわしいものとなりました。

安全なものをお安心して使ってもらえるように・・・



世界文化発刊の婦人雑紙「家庭画報」が主催する、第11回「家庭画報大賞」手作り作品部門で優秀賞を受賞。



人形には大きく分けて二種類あり、特定の表情を狙ったものとニュートラルな表情の中に喜怒哀楽が込められたものがあります。見る角度や光の加減で様々な表情が浮かびます。その表情は水彩で一筆一筆丁寧に描かれていて、目や眉などの細い線に使用する筆はあのマイセンの絵付けで使用される、ダチョウの羽の芯とリスの毛を使った手作りのドイツ製のレアなものや、筆圧が乗らない柳筆が使われています。

将来的には母の故郷・島根県にある「今井美術館」での個展を予定しています。現在はその個展に出品する作品づくりに専念している真っ最中です！また作品に興味をお持ちの方は、お気軽にお電話ください。



抱きかかえ  
大阪府堺市堺区  
お問い合わせ TEL&FAX 072-238-1672  
http://www.16.plala.or.jp/kdn/



がらむ隊がお邪魔した時、三浦さんは「だんじり祭り」をテーマにした子供の人形を制作中でした。写真下は三浦さんが編んだ小さな草履と、和紙を使用した手作りのはっぴ。写真上が完成後に三浦さんから届いた量新作のポストカードです。

